

# THE FRONTIER TIMES Report

## イギリスの名門・バーミンガム大学に合格!

今年9月にイギリスのバーミンガム大学へ進学する、  
中高一貫コース卒業生の堀江翔太郎君。  
海外の大学を目指したきっかけや受験の思い出、  
大学生活への抱負について話をうかがいました。

世界各国の人たちから、多様な考え方を吸収したい

**私**が進学するバーミンガム大学は、世界中のさまざまな国から学生が集まってくる非常に国際色豊かな大学です。また、キャンパスだけでなくバーミンガムそのものが多様な文化が混在する都市だという点にも大きな魅力を感じています。「国際性」や「多様性」は、私が進路を決める上で最も大切にポイントだったので、大学での4年間はたくさんの人との関わりを通して視点の違いを学び、いろいろな物事の捉え方を知り、それを柔軟に吸収して、自分なりの考え方を生み出せるようになりたいと思っています。  
9月から日本を離れ、イギリスで学生生活を送ることになりましたが、実は5年生の夏頃までは周りの仲間と同じように、日本国内の大学に進むつもりだったんです。もともと、英

語力を磨くための語学留学には興味があったのですが、まずは日本の大学に進んで、それから語学留学ができればいいかなと、漠然としたイメージしか持っていませんでした。



▲バーミンガム大学国際関係学部へ進学する堀江翔太郎君(中高一貫コース卒業生)

## 『マニラ国際理解研修』が海外に目を向けるきっかけに

**卒**業後の進路として海外の大学を意識するようになったきっかけは、高校2年生の時に参加した『マニラ国際理解研修』でした。現地の方と交流して感じたのは、日本人である自分が、日本の歴史や文化を十分に理解していなかったこと。しかも、それを外国の方に教えられたことがとても新鮮な驚きでした。その時に「英語力だけじゃなく、もっといろいろな人の視点や考え方を見聞きたい」と、海外に目を向ける「スイッチ」が入ったことを今もよく覚えています。その後しばらくは国内・海外どちらの大学受験にも対応できるよう準備を進めましたが、調べられるほど海外の大学に魅力を感じるようになっていきました。そして志望校をバーミンガム大学に決めてからは、合格判定基準になっている「IELTS(アイエルツ)」という試験に挑戦。4回目の受験でようやく合格基準点をクリアすることができました。途中、基準まで0.5点だけ足りないという悔しさも経験しましたが、

今になって振り返ると、試験の度に課題が見つかり、それを克服することで自分の成長を感じながら、充実した受験生活を送ることができたような気がしています。  
海外生活の経験もなく、中学に入学した頃はアルファベットの「M」と「N」の順番さえ曖昧だった私が6年後に海外の大学に進学できたのは、名古屋国際中学校の恵まれた環境のおかげです。エッセイ作り(志望動機書)でネイティブの先生から親身な指導をしていただいたり、海外の大学に関する情報を集めていただいたり、受験に向けた学校のサポートは本当に心強かったですし、何より「海外の大学に進学する」という目標を見つけるきっかけを与えてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。その恩返しをするためにも、大学生活ではたくさんの人と交流し、多角的な物事の考え方を身につけて、いつの日か名古屋国際中学校の後輩たちに自分の経験を伝えられればと思っています。☑

### バーミンガム大学

イギリスの名門大学の証とされる「ラッセル・グループ」のメンバーで、100年を超える歴史の中で、8名のノーベル賞受賞者をはじめ、ネヴィル・チェンバレン英国首相など数多くの優秀な人材を輩出。バーミンガムはイギリス国内でも特に文化的に多様な都市として知られ、世界約150カ国から5000人以上の留学生が集まってくるキャンパスには、国際色豊かな学生コミュニティが形成されている。17万人を超す卒業生がさまざまな分野でグローバルに活躍している。 ※バーミンガム大学日本語版HPより抜粋

# Feature

昨年11月に開催された「第7回全日本高校模擬国連大会」に参加した伊藤優璃也さん(中高一貫6年生)と菊澤萌さん(中高一貫5年生)。英語学習へのモチベーション向上や国際的視野の広がりなど、得るものが多かった2日間の体験を振り返ってくれました。

## 第7回 全日本 高校模擬国連大会 参加者レポート

人や立場によって、物事の捉え方が異なることを実感



▲「将来につながると感じた瞬間がたくさんあった」と菊澤萌さん(中高一貫5年生)

**TIMES:** 大会を振り返って、率直な感想を聞かせてください。

**伊藤優璃也さん:** 自分たちが想像していた以上にレベルの高い大会で、「会議の流れについていだけで精一杯」というのが正直な感想でした。

**菊澤萌さん:** 私たちは初参加だったので、周りの雰囲気になじめず倒れてばかりでした。出場経験がある学校とは、やっぱり「オーラ」が違いました。

**TIMES:** 会場の雰囲気や、会議の様子についてはどのように感じましたか?

**伊藤さん:** 体育館のような広い会議室に各国大使が集まり、それぞれに自国の主張や意見を発表しあう会場の雰囲気は、まるで本当の国際会議に出席しているかのように感じました。

**菊澤さん:** 会議はスタートから白熱した展開になり、論戦に負けず自国に有利な決議にするために、何度も他国の大使とミーティングをしたので、あっという間に時間が過ぎました。

**TIMES:** お二人はアルゼンチン大使として「児童労働」についての討論に参加されたそうですが、どのような主張をされたのでしょうか?

**菊澤さん:** 多国籍企業の誘致が貧困の解消につながるという論点から、南米各国で協力してフェアトレードに取り組もうという提案をしました。

**伊藤さん:** 南米各国の大使の他にも同じ考えを持った人がいたので、地域の枠を越えてグループを結成して、互いに有利になるような主張を展開することができました。

**TIMES:** 自分たちの主張の内容や、英語でのスピーチに手応えは感じましたか?

**伊藤さん:** 自分たちなりに自信を持って準備した視点や論点があったのですが、他国の大使に持ちかけられた、当たり前のごとくに考えている人がいて、「ああ、自分はまだまだなんだ」と、すごく悔しい思いをしました。

**菊澤さん:** 私はスピーチをする先輩のサポート役として他国の大使との交渉に全力を注いだのですが、思いがけない部分で論点の不備を指摘されることが多く、立場や人によって物事の捉え方が違うことを身をもって実感しました。



▲国際問題に関心の高い他校の生徒と交流できることも「全日本高校模擬国連大会」の魅力です。 ▲それぞれの得意分野を活かして役割を分担しながら、見事にアルゼンチン大使を務めた2人。

### 「全日本高校模擬国連大会」とは

参加者(高校1・2年生)一人ひとりが国連加盟国の大使として、国際会議のシミュレーションを通じ、現代社会におけるさまざまな課題について学ぶ教育プログラム。課題レポート提出による一次選考を勝ち抜いた60校(120名)が本大会に出場し、実際の国連会議のように各国の立場からテーマに対する意見・主張を英語で討論する。1923年にハーバード大学で始まり、日本では2013年度大会が7回目の開催。

他校の生徒との交流を通して、意欲や向上心が高まった

**TIMES:** 他国の大使(他校の生徒たち)のスピーチを聞いた感想は?

**伊藤さん:** どれだけ不利な立場に立たされても、自分の考えを堂々と主張している姿勢に驚かされました。

**菊澤さん:** 私は、世界中で現実と結ばれている条約をすべて把握し、対立国の主張を切り崩すポイントを提案していた人がいたことにびっくりしました。同じ高校生なのに、自分との知識量の差を知ってショックを受けました。

**TIMES:** 会議以外の時間に、他校の生徒と交流を図る機会がありましたか?

**伊藤さん:** 会議で同じグループになった人たちと一緒に食事をしたり、ホテルの部屋に集まって夜遅くまでミーティングをしたり、いろいろな形でコミュニケーションをとることができました。

**菊澤さん:** 連絡先を交換した人たちは、大会が終わった後も交流が続いています。お正月には年賀状の交換もしましたし、新しい仲間との「つながり」ができたことが嬉しいですね。

**TIMES:** 「全日本高校模擬国連大会」は、お二人にとってどんな経験になりましたか?

**伊藤さん:** お互いに意見を交換しあう討論形式のスピーチの難しさや楽しさを知ることができ、とても良い経験になりました。他校の生徒からもたくさんの刺激をもらい、「自分も頑張らなくちゃ」、「もっと英語力に磨きをかけたい!」という気持ちが高まりました。

**菊澤さん:** 改めて英語力の大切さに気づいたと同時に、日本語でも相手の主張を理解した上で自分の意見を発信する力の重要性を実感できる機会になりました。初めての経験で大変なこと多かったけれど、その分だけ得られた物も大きかったと感じています。

**TIMES:** 今回の経験を今後の学校生活でどのように活かしていきますか?

**伊藤さん:** 6年の選択科目でもう一度模擬国連に挑戦できるので、今回以上のスピーチを披露したいと思います。

**菊澤さん:** 私は伊藤先輩と一緒に頑張った昨年の経験を活かして、今年は先輩と一緒にぜひ「全日本高校模擬国連大会」に挑戦したいと思っています! ☑



▲「もっと上を目指そう、という気持ちになった」と伊藤優璃也さん(中高一貫6年生)

## HOT! NEWS

### A ユネスコスクール加盟に向けて

世界中の学校と交流し、地球規模の諸問題への対処をめざすユネスコスクールへの加盟申請を行いました。

**最**近「ESD(持続可能な開発のための教育)」という言葉が報道などで耳にすることがあります。ESDとはEducation for Sustainable Developmentの略で、環境、貧困、人権、平和、開発といった世界の様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そして、それにより持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のことです。今年11月にはESDに関するユネスコ世界会議が名古屋を会場として行われます。  
国際教育を推進している本校は、今までの教育活動をさらに発展させるべく、現在ESDに取り組むユネスコスクールの加盟申請手続きを進めています。  
ASPnet(Associated Schools

私たちは協力しています



Project Network)による海外の学校との交流で、世界の貧困や紛争といった課題について意見を交わし、より良い未来世界の構築について考えていきたいと思います。☑

### B PreIBDP一期生に30名の 国際生がエントリー!(3月27日現在)

2015年4月開始予定の国際バカロレア ディプロマ・プログラムの準備として、PreIBDPをスタートさせます。

**本**校は2013年9月から国際バカロレア ディプロマ・プログラム(IBDP)の候補校となっており、2015年4月のプログラム開始をめぐり、教員研修(Workshopへの参加)やカリキュラムの検討など認定校となるための準備を着々と進めています。  
この4月からは、ディプロマ・プログラムの履修を志望する新高校1年生に向けて、PreIBDPを始めます。PreIBDPでは、探究活動や言語活動を重視した生徒が能動的に学ぶスタイルの授業(国語科・英語科)を行う他、放課後を活用してさらなる英語力の向上などに取り組みます。  
国際バカロレア ディプロマ・プログラムについては、大阪大学や横浜市立大学などに続き、筑波大学が平成27年度入試から国際バカロレア特別入試の実施を決めるなどしており、今後ますます注目されるものと考えられます。意欲あふれる生徒の皆さんのチャレンジを期待しています。☑



▲IBDPでは生徒が積極的に学びます